

平成二十六年年度 大学院人文科学府修士課程第1期入学試験問題
(日本史学)

次の一く八の設問から6問を選び解答しなさい。但し、解答は全て縦書きとすること。

一 六国史をその成立順に掲げ、それぞれについて簡単に説明しなさい。その際、近代以降にどのような刊本があり(写真版は除く)、テキストとして用いるにはどれが良いかについて、必ず記すこと。

二 左に掲げた二つの史料に関する設問(一)く(三)に答えなさい。

○元慶五年(八八一)五月三日庚戌。大宰府言「管日向国守安倍朝臣弘行解稱『自弘仁十三年、迄貞観十四年、合四十九年。正税返却帳^①所載応徴穀額三百七十四万八千四百一十一束九把八歩八毫。自貞観十五年、至今年、惣九年、未得勘帳。勘出之物、随而可知。管内之政、先申於府。府更修解申官、千里待報、五年秩終。国吏之煩、無不由此。請准筑後・肥前・豊後等国之例、不請府解、直取押署、差国司言上』。太政官処分、依請。

○元慶八年(八八四)九月五日壬戌。大隅守従五位下時統宿祢当世修解申請稱「大隅・薩摩・日向・杵岐・対馬等国嶋、四度公文^②、進大宰府、国嶋雜掌^③、不更向京。而此国自天長元年以降六十一年、未請税帳返抄。就中、従天長元年迄貞観十五年、合五十年、正税返却帳所徴勘出穀額二百五十一万二千六百九十束、自貞観十六年迄当年、一十一年、公文未勘、亦其帳未進。然則、勘出之穀、未知幾許。望請、准六国^④、雜掌勘弁彼帳」。太政官処分、依請。即下知大宰府。

(一) 傍線を附した①「正税返却帳」、②「四度公文」、③「国嶋雜掌」について、それぞれ四五行程度で説明しなさい。

(二) 傍線④「六国」とはどの国か、国名を列挙しなさい。

(三) 二つの史料は、日向・大隅両国の守が、同様の訴えを起こして、それまでの制度の変更を請求し、これが認められたことを記している。それまでの制度にはどのような問題があると訴えているのか、概略を説明しなさい。

三 次の史料は、『吾妻鏡』文永三年（一一二六）の將軍宗尊親王追放の直前の記事である。史料を読み、設問（一）～（四）に答えなさい。

『吾妻鏡』文永三年条

（五月）二十五日丁巳、相州（北条時宗）令參御所給云々、
（六月）十九日庚辰、天晴、今暁、諏訪三郎左衛門入道為飛脚上洛云々、
（六月）二十日辛巳、於相州（北条時宗）御亭、有深秘御沙汰、相州・左京兆（北条政村）・（金沢）越後守実時・（安達）秋田城介泰盛会合、此外人々不及參加云々（下略）、
（六月）二十四日乙酉、霽、子剋大地震（下略）、
（六月）二十六日丁亥、天晴、近国御家人如蜂競集、余屋満巷云々、
（七月）一日辛卯、雷雨、御家人等或破関有奔參于鎌倉之輩、或廻路有密參之類、皆帶兵具隱居辺土民屋、及西刻俄騒動、群集之輩加小具足帶弓箭、然而無事而暮畢、
（七月）三日癸巳（中略）、「自今暁、民間不安、或破壞家屋、或運隱資材、是皆怖戰場之故歟、已一点、甲冑軍士揚旗、自東西馳集、窺參相州門外、次於政所南大路相、一同時音、其後、少卿入道心蓮・信濃判官入道行一等為相州御使參御所、往還及兩三度云々、先如此軍動之時、將軍家（宗尊親王）入御執權亭、又可然人々參營中奉守護之歟、今度無其儀、世以恠之」（下略）、

（一）六月二十日条の北条時宗亭における会議では、宗尊親王の京都への追放が相談されたと考えられる。この時の会議の場と会議のメンバーから、この当時の政治のどのような特徴が出ているか、考えるところを述べなさい。

（二）七月一日条を読み下しにしなさい。

（三）七月三日条の「」の部分解釈しなさい。

（四）宗尊親王の京都への追放と鎌倉における騒乱状況は関連すると考えられる。何ら実権がなかったとされる將軍宗尊親王の追放時に、なぜこのような御家人による騒乱が起こったのか、考えるところを述べなさい。

四 中世における仏教の展開について、論述しなさい。

五 次の史料は、承応二年（一六五三）六月二十七日付江戸幕府老中連署状である。これを読み、設問
（二）（三）に答えなさい。なお、宛所は上野寛永寺の子院であり、追って書き中の「毘沙門堂」
は、京都山科にある延暦寺別院の門跡寺院である。

著作権上の理由により、WEB公開版では問題文を削除した。

著作権上の理由により、**WEB** 公開版では問題文を削除した。

(早稲田大学所蔵)

(一) 史料中の「日光御門跡」(日光山輪王寺門跡)について説明しなさい。

(二) 史料の本文(「去廿二日」から「恐々頓首」まで)について、釈文を作成しなさい。但し、改行は史料原文の通りとし、適宜、句読点を付けなさい。なお、漢字は可能な限り現行のものを
使うこと。

(三) 史料中の「禁中」・「天子」・「院」などの用語に留意して、史料の内容を解釈しなさい。

六 日本近世に関する次の(一)～(六)の語句から4つを選び、説明しなさい。

(一) 田安德川家

(二) 寛永通宝

(三) 入百姓(居付百姓)

(四) 平田篤胤

(五) 長崎会所

(六) ラクスマン

七 次の書簡を読んで、設問(一)～(五)に答えなさい。

新政党ニ会名ヲ用候事ハ星も必ラス右様可然と申居候趣岡崎より内報ニ御座候

去十日附芳書拝読仕候処御病氣御全快ニは無之由折角御加養希望仕候滄浪候とも其後御話相成候趣御内示奉深謝候昨日同侯より十四五日までに上京アリタシとの電報有之候処十四日ニハ用事有之十五日出發十六日朝東京着と可致旨返電仕置候ニ付何れ不遅内拝顔出来可申と奉存候

本日電話ニテ日々新聞ニ新政党之進行と自由党と巳代治之關係など登載致候旨申越候多分過日小生ニ内話致たる大意ニ可有之と存候処右様登載致候位ナレハ結党之大略も決定致候事ニ可有之哉など推測仕居候何れ拝晤之節万可申述右御含まで一寸申上置候 勿々頓首

八月十二日

原敬

西園寺侯爵閣下侍史

(一) 二重傍線を付した「星」「岡崎」「滄浪侯」「巳代治」について、それぞれの姓名を答えなさい。

(二) 波線部「新政党」の名称を答えなさい。

(三) この書簡は何年に書かれたものか、答えなさい。

(四) 「日々新聞」に登載された記事にはどのようなことが記されていると考えられるか、答えなさい。

(五) この史料を使って論文を執筆すると仮定し、その論文の構想をできるだけ詳しく説明しなさい。ただしその際には、当該テーマの研究状況、および執筆にあたってどのような史料を用いるかについて、必ず触れること。

八 次の(一)～(六)の語句から4つを選び、説明しなさい。

(一) 実学党

(二) ノルマントン号事件

(三) 八幡製鉄所

(四) 大戦景気

(五) 新人会

(六) 全面講和